

## ま え が き

この薬価基準は、平成28年3月4日厚生労働省告示第55号に基づき編集したものです。平成28年4月1日から実施されます。

本書の使用にあたっては、つぎの各項にご留意ください。

1. 内用薬、外用薬、歯科用薬剤は一括して品名50音順に配列し、そのあとに注射薬を品名50音順で記載しました。
2. 品名の前に付した略号は以下の通りです。

先……薬価制度において「先発医薬品」として整理しているもの

①……後発医薬品がない先発医薬品〔後発医薬品の上市前の先発医薬品等（平成28年4月1日現在）〕

②……後発医薬品がある先発医薬品〔先発医薬品と後発医薬品で剤形や規格が同一でない場合等を含む（平成28年4月1日現在）〕

①②は厚生労働省ホームページ公開の「薬価基準収載品目リスト及び後発医薬品に関する情報について」5. その他（各先発医薬品の後発医薬品の有無に関する情報）で更新されるので、最新の区分を確認してください。

☆……後発医薬品と同額又は薬価が低い先発医薬品

準……準先発品（昭和42年以前に承認・薬価収載された医薬品のうち価格差のある後発医薬品があるもの）

後……診療報酬において加算等の算定対象となる後発医薬品

★……診療報酬上の加算等の対象から除外する後発医薬品〔先発品と価格逆転（同額含む）が起こっている品目〕

以上は、「薬価基準収載品目リスト及び後発医薬品に関する情報について（平成28年4月1日適用）」（厚生労働省、平成28年3月4日公表）（<http://www.mhlw.go.jp/topics/2016/04/tp20160401-01.html>）に準拠。

外……外用薬      歯……歯科用薬剤

劇……劇薬      向……向精神薬      毒……毒薬      覚……覚せい剤原料

麻……麻薬      生……生物由来製品      特……特定生物由来製品

処……処方せん医薬品（内用薬・外用薬・歯科用薬剤の該当品目に対して表示）

局……日本薬局方収載医薬品（統一収載）

局……銘柄別収載日本薬局方収載医薬品

統……統一名で薬価収載された品目（統一名収載品目）（統一名収載の局方品を含む）

経……平成28年9月30日までの使用期限の経過措置品目。

経……平成29年3月31日までの使用期限の経過措置品目。

（経過措置品目は、平成28年3月4日厚生労働省告示第51号に基づく。）

※……製造販売承認の品名では、他社の品名と区別できない品目で、官報告示の際、品名の次に括弧書によって医薬品製造販売業者名の略称を加えたことを示す。

麻薬、毒薬、向精神薬、覚せい剤原料は、これらを調剤したとき加算（2種以上重複した場合は1種のみ）があるので、調剤料の算定の際には注意を要します。

また劇マークが付された品目であっても、散剤、細粒剤、顆粒剤であって、1服用単位ごとに分包化されたものは、劇薬から除外される場合もあります。

メーカー名は、製造販売承認取得会社名（可能な限りにおいて販売会社名）として記しました。薬価基準は、消費税に相当する額を含む価格で告示されています。

3. 内用薬、外用薬には可能な限り新一般名（配合剤を除く）、用法・用量等（必要に応じて標榜薬効等）を付しました。

用法・用量は、あくまでも調剤報酬算定の参考のためであり（平成28年2月末時点での添付文書に準拠）、詳細等については、当該医薬品の添付文書を参照・確認・準拠してください。

4. 「薬効」と「分類」は原則として、「日本標準商品分類（平成2年6月改訂）」に準拠（一部改変）しております。本書p.xviiの薬効分類を参照してください。

2016年3月4日

（株）薬事日報社

薬価	区分	品名	(規格単位)	メーカー	薬効	用法	用量	分類
680.50	先①(外) 劇(処)	アイオピジンUD点眼液1%	(1%0.1mL1個)	日本アルコン	眼科用剤	アブラクロニジン塩酸塩点眼液[アブラクロニジンとして10mg(1mL中)] レーザー照射1時間前、及び照射直後に術眼に1滴ずつ点眼(レーザー術後眼圧上昇防止剤)		1319
267.30	後(外)	アイケア点眼液0.1%	(0.1%5mL1瓶)	科研製薬(テイカ製薬、科研製薬)	眼科用剤	精製ヒアルロン酸ナトリウム(角結膜上皮障害治療用点眼剤)1回1滴、1日5~6回点眼し、適宜増減、通常は0.1%製剤を投与		1319
358.40	後(外)	アイケア点眼液0.3%	(0.3%5mL1瓶)	科研製薬(テイカ製薬、科研製薬)	眼科用剤	精製ヒアルロン酸ナトリウム3mg(1mL中)1回1滴、1日5~6回点眼、適宜増減、重症疾患等で効果不十分の場合には0.3%製剤を投与(角結膜上皮障害治療用点眼剤)		1319
15.80	後(外)	アイケアミニ点眼液0.3%	(0.3%0.4mL1個)	科研製薬	眼科用剤	精製ヒアルロン酸ナトリウム点眼液1回1滴、1日5~6回点眼、適宜増減、通常は0.1%製剤を投与し重症疾患等で効果不十分の場合0.3%製剤を投与(角結膜上皮障害治療用点眼剤)(0.4mL包装)		1319
6.40	後	アイスフラット懸濁用配合顆粒	(1g)	長生堂製薬(日本ジェネリック)	制酸剤	乾燥水酸化アルミニウムゲル448mg(酸化アルミニウムとして224mg)、水酸化マグネシウム400mg(1g中)1日1.6~4.8gを数回に分割、用時1gを約10mLの水に懸濁又はそのまま経口投与(消化性潰瘍・胃炎治療剤)		2349
1,553.60	先①(劇) 劇(処)	アイセントレス錠400mg	(400mg1錠)	MSD	抗ウイルス剤	ラルテグラビルカリウム錠 ラルテグラビルとして400mgを1日2回経口投与、食事の有無にかかわらず投与可、必ず他の抗HIV薬と併用(HIV感染症)(HIVインテグラーゼ阻害剤)		6250
84.80	後(外)	アイドロイチン1%点眼液(1%5mL1瓶)		参天製薬	眼科用剤	コンドロイチン硫酸エステルナトリウム10mg(1mL中)1日2~4回、1回1~2滴点眼[角膜表層の保護](角膜保護点眼剤)		1319
87.20	後(外)	アイドロイチン3%点眼液(3%5mL1瓶)		参天製薬	眼科用剤	コンドロイチン硫酸エステルナトリウム30mg(1mL中)1日2~4回、1回1~2滴点眼[角膜表層の保護]		1319
9.90	先②(処) 局	アイトロール錠10mg	(10mg1錠)	トーアエイヨー(アステラス)	血管拡張剤	一硝酸イソソルビドとして1回20mg1日2回を経口投与、適宜増減、効果不十分時1回40mg1日2回迄増量可、労作狭心症又は労作兼安静狭心症で発作回数及び運動耐容能の面で重症:1回40mg1日2回投与可(狭心症治療用ISMN製剤)		2171
14.50	先②(処) 局	アイトロール錠20mg	(20mg1錠)	トーアエイヨー(アステラス)	血管拡張剤	一硝酸イソソルビドとして1回20mg1日2回を経口投与、適宜増減、効果不十分時1回40mg1日2回迄増量可、労作狭心症又は労作兼安静狭心症で発作回数及び運動耐容能の面で重症:1回40mg1日2回投与可(狭心症治療用ISMN製剤)		2171
37.20	先②	アイピーディカプセル50	(50mg1カプセル)	大鵬薬品工業	アレルギー用剤	スプラタストシル酸塩として1回100mgを1日3回毎食後に経口投与、適宜増減[気管支喘息、アトピー性皮膚炎、アレルギー性鼻炎](アレルギー性疾患治療剤)		4490
44.10	先②	アイピーディカプセル100	(100mg1カプセル)	大鵬薬品工業	アレルギー用剤	スプラタストシル酸塩として1回100mgを1日3回毎食後に経口投与、適宜増減(アレルギー性疾患治療剤)		4490
52.30	先①	アイピーディドライシロップ5%	(5%1g)	大鵬薬品工業	アレルギー用剤	スプラタストシル酸塩として気管支喘息:小児には1回3mg/kgを1日2回朝食後・夕食後に用時溶解して経口投与、適宜増減、1日投与量は成人通常1日用量300mg(ドライシロップとして6g)を超えない、標準投与量はドライシロップとして1回量3歳以上5歳未満:0.75g、5歳以上11歳未満:1.5g、11歳以上:2.0g、1日2回朝食後及び夕食後、用時溶解		4490
450.70	先①(外) 劇(処)	アイファガン点眼液0.1%	(0.1%1mL)	千寿製薬(武田薬品)	眼科用剤	ブリモニジン酒石酸塩1mg(1mL中)緑内障・高眼圧症で他の緑内障治療薬が効果不十分又は使用できない場合:1回1滴、1日2回点眼(ドレナリンα2受容体作動薬 緑内障・高眼圧症治療剤)		1319
148.60	先①(劇) 劇(処)	アイミクス配合錠HD	(1錠)	大日本住友製薬(大日本住友、塩野義)	血圧降下剤	イルベサルタン100mg・アムロジピン10mg(アムロジピンベシル酸塩13.87mg)(1錠中)高血圧症:成人1日1錠を経口投与、本剤は高血圧治療の第一選択薬として用いない(長時間作用型ARB(持続性Ca拮抗薬配合剤))		2149
128.20	先①(劇) 劇(処)	アイミクス配合錠LD	(1錠)	大日本住友製薬(大日本住友、塩野義)	血圧降下剤	イルベサルタン100mg・アムロジピン5mg(アムロジピンベシル酸塩6.93mg)(1錠中)高血圧症:成人1日1錠を経口投与、本剤は高血圧治療の第一選択薬として用いない		2149

薬価	区分	品名 (規格単位)	メーカー	薬効	用法	用量	分類
8.20	後製	アセトアミノフェン細粒20%「タツミ」 (20%1g)	辰巳化学	解熱鎮痛消炎剤	アセトアミノフェンとして鎮痛: 成人1回300~1000mg、投与間隔4~6時間以上、適宜 増減、1日総量4000mg限度、急性上気道炎(急性気管 支炎を伴う急性上気道炎を含む)解熱鎮痛:1回300 ~500mgを頓用、適宜増減、原則1日2回迄、1日最大 1500mg限度、小児科領域解熱・鎮痛:1回10~15mg /kgを経口投与、投与間隔4~6時間以上、適宜増減、1 日総量60mg/kg限度、成人用量を超えない、空腹時投 与は避けさせる(解熱鎮痛剤)[劇薬(分包品を除 く)]	1141	
8.20	後製	アセトアミノフェン細粒20%(TYK) (20%1g)	大正薬品(テバ製薬)	解熱鎮痛消炎剤	アセトアミノフェンとして鎮痛: 成人1回300~1000mg、投与間隔4~6時間以上、適宜 増減、1日総量4000mg限度、急性上気道炎(急性気管 支炎を伴う急性上気道炎を含む)解熱鎮痛:1回300 ~500mgを頓用、適宜増減、原則1日2回迄、1日最大 1500mg限度、小児科領域解熱・鎮痛:1回10~15mg /kgを経口投与、投与間隔4~6時間以上、適宜増減、1 日総量60mg/kg限度、成人用量を超えない、空腹時投 与は避けさせる(解熱鎮痛剤)[劇薬(分包品を除 く)]	1141	
8.20	後製	アセトアミノフェン細粒20%「JG」 (20%1g)	長生堂製薬(日本 ジェネリック)	解熱鎮痛消炎剤	アセトアミノフェンとして鎮痛: 成人1回300~1000mg、投与間隔4~6時間以上、適宜 増減、1日総量4000mg限度、急性上気道炎(急性気管 支炎を伴う急性上気道炎を含む)解熱鎮痛:1回300 ~500mgを頓用、適宜増減、原則1日2回迄、1日最大 1500mg限度、小児科領域解熱・鎮痛:1回10~15mg /kgを経口投与、投与間隔4~6時間以上、適宜増減、1 日総量60mg/kg限度、成人用量を超えない、空腹時投 与は避けさせる(解熱鎮痛剤)[劇薬(分包品を除 く)]	1141	
19.30	★(外)	アセトアミノフェン坐剤小児用50mg「日新」 (50mg1個)	日新製薬	解熱鎮痛消炎剤	アセトアミノフェンとして乳児・ 幼児・小児:1回10~15mg/kgを直腸内に挿入、投与間 隔4~6時間以上、1日総量60mg/kg限度、成人の用量 を超えない(小児用解熱鎮痛剤)	1141	
19.30	★(外)	アセトアミノフェン坐剤小児用50mg「JG」 (50mg1個)	長生堂製薬(日本 ジェネリック)	解熱鎮痛消炎剤	アセトアミノフェンとして乳児・ 幼児・小児:1回10~15mg/kgを直腸内に挿入、投与間 隔4~6時間以上、1日総量60mg/kg限度、成人の用量 を超えない(小児用解熱鎮痛剤)	1141	
19.30	★(外)	アセトアミノフェン坐剤小児用50mg「TYK」 (50mg1個)	大正薬品(テバ製薬)	解熱鎮痛消炎剤	アセトアミノフェンとして乳児・ 幼児・小児:1回10~15mg/kgを直腸内に挿入、投与間 隔4~6時間以上、1日総量60mg/kg限度、成人の用量 を超えない	1141	
19.30	★(外)	アセトアミノフェン坐剤小児用100mg「日新」 (100mg1個)	日新製薬	解熱鎮痛消炎剤	アセトアミノフェンとして乳児・ 幼児・小児:1回10~15mg/kgを直腸内に挿入、投与間 隔4~6時間以上、1日総量60mg/kg限度、成人の用量 を超えない(小児用解熱鎮痛剤)	1141	
19.30	★(外)	アセトアミノフェン坐剤小児用100mg「JG」 (100mg1個)	長生堂製薬(日本 ジェネリック)	解熱鎮痛消炎剤	アセトアミノフェンとして乳児・ 幼児・小児:1回10~15mg/kgを直腸内に挿入、投与間 隔4~6時間以上、1日総量60mg/kg限度、成人の用量 を超えない(小児用解熱鎮痛剤)	1141	
19.30	★(外)	アセトアミノフェン坐剤小児用100mg「TYK」 (100mg1個)	大正薬品(テバ製薬)	解熱鎮痛消炎剤	アセトアミノフェンとして乳児・ 幼児・小児:1回10~15mg/kgを直腸内に挿入、投与間 隔4~6時間以上、1日総量60mg/kg限度、成人の用量 を超えない(小児用解熱鎮痛剤)	1141	
19.90	後製	アセトアミノフェン坐剤小児用200mg「日新」 (200mg1個)	日新製薬	解熱鎮痛消炎剤	アセトアミノフェンとして乳児・ 幼児・小児:1回10~15mg/kgを直腸内に挿入、投与間 隔4~6時間以上、1日総量60mg/kg限度、成人の用量 を超えない	1141	
19.90	後製	アセトアミノフェン坐剤小児用200mg「JG」 (200mg1個)	長生堂製薬(日本 ジェネリック)	解熱鎮痛消炎剤	アセトアミノフェンとして乳児・ 幼児・小児:1回10~15mg/kgを直腸内に挿入、投与間 隔4~6時間以上、1日総量60mg/kg限度、成人の用量 を超えない	1141	
19.90	後製	アセトアミノフェン坐剤小児用200mg「TYK」 (200mg1個)	大正薬品(テバ製薬)	解熱鎮痛消炎剤	アセトアミノフェンとして乳児・ 幼児・小児:1回10~15mg/kgを直腸内に挿入、投与間 隔4~6時間以上、1日総量60mg/kg限度、成人の用量 を超えない	1141	

薬価	区分	品名	(規格単位) メーカー	薬効	用法	用量	分類
44.30	先①	アルギU配合顆粒	(1g) EAファーマ	代謝性医薬品	L-アルギニン塩酸塩605mg・L-アルギニン500mg(1.3g中) 1日量体重1kg当たり0.15~0.50gを3~6分服(尿素サイクル異常症薬)		3999
6.60	後	アルクレイン内用液5%	(10mL) 鶴原製薬	消化性潰瘍用剤	アルギン酸ナトリウムとして1回1~3g(本剤20~60mL)を1日3~4回、空腹時に経口投与、適宜増減(逆流性食道炎・消化性潰瘍用剤)		2329
188.70	先① 毒 処	アルケラン錠2mg	(2mg1錠) アスペンジャパン	抗多発性骨髄腫剤	メルファランとして2~12mgを1日1回連日又は4~10日間(総量40~60mg)投与等、適宜用量を増減又は休業(抗多発性骨髄腫剤)		4219
6.40	先②	アルサルミン細粒90%	(90%1g) 中外製薬	消化性潰瘍用剤	スクラルファート水和物(シロ糖硫酸エステルアルミニウム塩)900mg(1g中) 成人1回1~1.2gずつ1日3回経口投与、適宜増減(胃炎・消化性潰瘍治療剤)		2329
3.30	先②	アルサルミン内用液10%	(10%1mL) 中外製薬	消化性潰瘍用剤	スクラルファート水和物懸濁剤 1回10mLを1日3回経口投与、内服分包装剤(1包10mL)有		2329
5.60	後 局	アルジオキサ顆粒10%「トーウ」	(10%1g) 東和薬品	消化性潰瘍用剤	アルジオキサとして1日300~400mgを3~4回に分割経口投与、適宜増減(胃・十二指腸潰瘍治療剤)		2329
6.20	後 局	アルジオキサ顆粒20%「日医工」	(20%1g) 日医工	消化性潰瘍用剤	アルジオキサとして1日300~400mgを3~4回に分服、適宜増減(胃・十二指腸潰瘍治療剤)		2329
7.40	後 局	アルジオキサ顆粒25%「ツルハラ」	(25%1g) 鶴原製薬	消化性潰瘍用剤	アルジオキサとして1日300~400mgを3~4回に分服、適宜増減(胃・十二指腸潰瘍治療剤)		2329
6.20	後 局	アルジオキサ顆粒50%「ツルハラ」	(50%1g) 鶴原製薬	消化性潰瘍用剤	アルジオキサとして1日300~400mgを3~4回に分服、適宜増減(胃・十二指腸潰瘍治療剤)		2329
6.20	後 局	アルジオキサ顆粒50%「YD」	(50%1g) 陽進堂	消化性潰瘍用剤	アルジオキサとして1日300~400mgを3~4回に分服、適宜増減(胃・十二指腸潰瘍治療剤)		2329
5.60	後 局	アルジオキサ錠100mg「イセイ」	(100mg1錠) コーアイセイ	消化性潰瘍用剤	アルジオキサとして1日300~400mgを3~4回に分割経口投与、適宜増減		2329
5.60	後 局	アルジオキサ錠100mg「ツルハラ」	(100mg1錠) 鶴原製薬	消化性潰瘍用剤	アルジオキサとして1日300~400mgを3~4回に分割経口投与、適宜増減		2329
5.60	後 局	アルジオキサ錠100mg「トーウ」	(100mg1錠) 東和薬品	消化性潰瘍用剤	アルジオキサとして1日300~400mgを3~4回に分割経口投与、適宜増減		2329
5.80	後 製 統	アルシオドールカプセル0.25μg	(0.25μg1カプセル) シオノケミカル	ビタミンD剤	アルファカルシドールとして小児に對しては骨粗鬆症の場合には1日1回0.01~0.03μg/kgを、その他の疾患の場合には1日1回0.05~0.1μg/kgを経口投与、適宜増減(Ca・骨代謝改善剤)		3112
5.80	後 製 統	アルシオドールカプセル0.5μg	(0.5μg1カプセル) シオノケミカル(ポーラファアルマ、ファイザー、辰巳化学、シオノケミカル)	ビタミンD剤	アルファカルシドールとして副甲状腺機能低下症、その他のビタミンD代謝異常に伴う疾患:1日1回1.0~4.0μgを経口投与、適宜増減		3112
8.90	後 製 統	アルシオドールカプセル1μg	(1μg1カプセル) シオノケミカル(ポーラファアルマ、辰巳化学、ファイザー)	ビタミンD剤	アルファカルシドールとして副甲状腺機能低下症、その他のビタミンD代謝異常に伴う疾患:1日1回1.0~4.0μgを経口投与、適宜増減		3112
22.50	後 製 統	アルシオドールカプセル3μg	(3μg1カプセル) シオノケミカル	ビタミンD剤	アルファカルシドールとして副甲状腺機能低下症、その他のビタミンD代謝異常に伴う疾患:1日1回1.0~4.0μgを経口投与、適宜増減		3112
19.10	後 局	アルジキサル錠5	(5mg1錠) テバ製薬	アレルギー用剤	ベミロラストカリウムとしてアレルギー性鼻炎:1回5mgを1日2回、朝食後及び夕食後(又は就寝前)経口投与		4490
37.10	後 局	アルジキサル錠10	(10mg1錠) テバ製薬	アレルギー用剤	ベミロラストカリウムとして気管支喘息:成人1回10mgを1日2回朝食後及び夕食後(又は就寝前)、小児:5歳以上11歳未満1回5mg1日2回、11歳以上1回10mg1日2回経口投与(アレルギー性疾患治療剤)		4490
1,279.40	先① 外 処	アスロマチック関節手術用灌流液	(3L1袋) バクスター	関節手術用灌流洗浄液	乳酸リンゲル液:塩化ナトリウム18g・塩化カリウム0.9g・塩化カルシウム0.6g・乳酸ナトリウム9.3g [1バッグ(3000mL)中](関節手術用灌流・洗浄液)		3399
17.40	後 製 局 処	アルセチン錠5	(5mg1錠) テバ製薬	高脂血症用剤	プラバスタチンナトリウムとして1日10mgを1回又は2回に分け経口投与、適宜増減、重症:1日20mg迄増量可(HMG-CoA還元酵素阻害剤・高脂血症治療剤)		2189

カル(内・外・歯)

薬価	区分	品名	(規格単位)	メーカー	薬効	用法	用量	分類
11.40	後	カルボシステインDS50%「トワ」	(50%1g)	東和薬品	去痰剤	L-カルボシステイン500mg(1g中) カルボシステインとして幼・小児に体重kg当たり1回10mg(本剤0.02g)を時懸濁、成人1回500mg(本剤1.0g) 用時懸濁、1日3回経口投与、適宜増減	2233	
7.60	後(劇)統	カルミサルカプセル0.25	(0.25μg1カプセル)	鶴原製薬	ビタミンD剤	カルシトリオールとして慢性腎不全:1日1回0.25~0.75μg、骨粗鬆症:1日0.5μgを2回に分けて、経口投与、適宜増減	3112	
11.60	後(劇)統	カルミサルカプセル0.5	(0.5μg1カプセル)	鶴原製薬	ビタミンD剤	カルシトリオールとして副甲状腺機能低下症、その他のビタミンD代謝異常に伴う疾患:1日1回0.5~2.0μgを経口投与	3112	
7.20	局	カルメロースナトリウム	(1g)	局方品	緩下剤	カルメロースナトリウムとして1日量1.5~6gを多量の水で3分服	2359	
7.20	局	カルメロースナトリウム原末「マルイシ」	(1g)	丸石製薬	緩下剤	カルメロースナトリウムとして1日量1.5~6gを多量の水で3分服	2359	
330.70	先(1)劇(処)	カレトラ配合錠	(1錠)	アッヴィ	抗ウイルス剤	ロピナビル200mg・リトナビル50mg(1錠中)ロピナビル・リトナビルとして1回400mg・100mg(2錠)を1日2回、又は1回800mg・200mg(4錠)を1日1回経口投与、体重40kg以上の小児にはロピナビル・リトナビルとして1回400mg・100mg(2錠)を1日2回投与可、食事の有無にかかわらず投与可(HIV感染症)(抗ウイルス化学療法剤)	6250	
147.40	先(1)劇(処)	カレトラ配合内用液	(1mL)	アッヴィ	抗ウイルス剤	ロピナビル80mg・リトナビル20mg(1mL中)ロピナビル・リトナビルとして1回400mg・100mg(5mL)を1日2回食後経口投与、小児:体重7kg以上15kg未満で1kgあたり12mg・3mg、15kg以上40kg以下で1kgあたり10mg・2.5mgを1日2回食後経口投与、最大投与量は400mg・100mg(5mL)1日2回投与(HIV感染症)(抗ウイルス化学療法剤)	6250	
14.60	局	カロコン	(10g)	局方品	生薬	カロコン	5100	
14.60	局	カロコンダイコーM	(10g)	大児生薬	生薬	カロコン	5100	
7.20	局(劇)	カロナール原末	(1g)	あゆみ製薬	解熱鎮痛消炎剤	アセトアミノフェンとして鎮痛:成人1回300~1000mg、投与間隔4~6時間以上、適宜増減、1日総量4000mg限度、急性上気道炎(急性気管支炎を伴う急性上気道炎を含む)解熱鎮痛:1回300~500mgを頓用、適宜増減、原則1日2回迄、1日最大1500mg限度、小児科領域解熱・鎮痛:1回10~15mg/kgを経口投与、投与間隔4~6時間以上、適宜増減、1日総量60mg/kg限度、成人用量を超えない、空腹時投与は避けさせる	1141	
8.20	後(劇)	カロナール細粒20%	(20%1g)	あゆみ製薬	解熱鎮痛消炎剤	アセトアミノフェンとして鎮痛:成人1回300~1000mg、投与間隔4~6時間以上、適宜増減、1日総量4000mg限度、急性上気道炎(急性気管支炎を伴う急性上気道炎を含む)解熱鎮痛:1回300~500mgを頓用、適宜増減、原則1日2回迄、1日最大1500mg限度、小児科領域解熱・鎮痛:1回10~15mg/kgを経口投与、投与間隔4~6時間以上、適宜増減、1日総量60mg/kg限度、成人用量を超えない、空腹時投与は避けさせる(解熱鎮痛剤)[劇薬(分包品を除く)]	1141	
9.80	後(劇)	カロナール細粒50%	(50%1g)	あゆみ製薬	解熱鎮痛消炎剤	アセトアミノフェンとして鎮痛:成人1回300~1000mg、投与間隔4~6時間以上、適宜増減、1日総量4000mg限度、急性上気道炎(急性気管支炎を伴う急性上気道炎を含む)解熱鎮痛:1回300~500mgを頓用、適宜増減、原則1日2回迄、1日最大1500mg限度、小児科領域解熱・鎮痛:1回10~15mg/kgを経口投与、投与間隔4~6時間以上、適宜増減、1日総量60mg/kg限度、成人用量を超えない、空腹時投与は避けさせる(解熱鎮痛剤)[劇薬(0.6g分包品を除く)]	1141	
19.30	先(☆)外	カロナール坐剤小児用50	(50mg1個)	あゆみ製薬	解熱鎮痛消炎剤	アセトアミノフェンとして乳児・幼児・小児:1回10~15mg/kgを直腸内に挿入、投与間隔4~6時間以上、1日総量60mg/kg限度、成人の用量を超えない(小児用解熱鎮痛剤)	1141	
19.30	先(☆)外	カロナール坐剤100	(100mg1個)	あゆみ製薬(あゆみ製薬、高田製薬)	解熱鎮痛消炎剤	アセトアミノフェンとして乳児・幼児・小児:1回10~15mg/kgを直腸内に挿入、投与間隔4~6時間以上、1日総量60mg/kg限度、成人の用量を超えない(小児用解熱鎮痛剤)	1141	

サア(内・外・歯)

薬価	区分	品名	(規格単位)	メーカー	薬効	用法	用量	分類
65.20	先②(処)局	サアミオン散1%	(1%1g)	田辺三菱製薬	循環器官用剤	ニセルグリンとして1日量15mgを3回に分けて経口投与、適宜増減(脳循環・代謝改善剤)[脳梗塞後遺症に伴う慢性脳循環障害による意識低下の改善]		2190
29.50	先②(処)局	サアミオン錠5mg	(5mg1錠)	田辺三菱製薬	循環器官用剤	ニセルグリンとして1日量15mgを3回に分けて経口投与、適宜増減(脳循環・代謝改善剤)		2190
863.00	先①(処)劇	ザイアジェン錠300mg	(300mg1錠)	ヴィーヘルスケア(グラクソスミスクライン)	抗ウイルス剤	アバカビル硫酸塩351mg(アバカビルとして300mg)(1錠中) アバカビルとして1日量600mgを1日1回又は2回に分けて経口投与、適宜減量、他の抗HIV薬と併用(HIV感染症)(抗ウイルス化学療法剤)		6250
333.90	(処)	サイクロセリンカプセル250mg「明治」 (250mg1カプセル)		MeijiSeikaファルマ	抗生物質製剤	サイクロセリンとして1回250mg(力価)を1日2回経口投与、適宜減量、原則として他の抗結核薬と併用(抗結核性抗生物質製剤)		6162
45.30	(局)	サイコ	(10g)	局方品	生薬	サイコ		5100
45.30	(局)	サイコム永大	(10g)	永大薬業	生薬	サイコ		5100
45.30	(局)	サイコダイコーM	(10g)	大晃生薬	生薬	サイコ		5100
96.40	先①(処)	ザイザル錠5mg	(5mg1錠)	グラクソスミスクライン	アレルギー用剤	レボセチリジン塩酸塩として成人:1回5mgを1日1回就寝前経口投与、適宜増減、最高投与量1日10mg、7歳以上15歳未満小児:1回2.5mgを1日2回朝食後・就寝前経口投与(白色の両面に割線有楕円形フィルムコーティング錠)(持続性アレルギー性疾患治療剤)		4490
17.90	先①(処)	ザイザルシロップ0.05% (0.05%1mL)		グラクソスミスクライン	アレルギー用剤	レボセチリジン塩酸塩0.5mg(1mL中)レボセチリジン塩酸塩として成人1回5mg(10mL)を1日1回就寝前経口投与、適宜増減、最高投与量1日10mg(20mL)、[小児]6ヵ月以上1歳未満1回1.25mg(2.5mL)を1日1回、1歳以上7歳未満1回1.25mg(2.5mL)を1日2回朝食後・就寝前、7歳以上15歳未満1回2.5mg(5mL)を1日2回朝食後・就寝前経口投与[持続性選択H1受容体拮抗・アレルギー性疾患治療剤]		4490
70.70	(局)	サイシン	(10g)	局方品	生薬	サイシン		5100
70.70	(局)	サイシンM永大	(10g)	永大薬業	生薬	サイシン		5100
70.70	(局)	サイシンダイコーM	(10g)	大晃生薬	生薬	サイシン		5100
448.10	先①(処)	サイスタダン原末	(1g)	レクメド	ホモシチン尿症治療剤	ベタイン1g(本剤1g中)(経口用散剤)ベタインとして11歳以上には1回3g、11歳未満には1回50mg/kgを1日2回経口投与、患者の状態、血漿中総ホモシチン値、血漿中メチオニン値等を参考に適宜増減[ホモシチン尿症治療剤]		3999
3,690.90	先①(処)劇	ザイティガ錠250mg	(250mg1錠)	ヤンセンファーマ	抗悪性腫瘍剤	アピラテロン酢酸エステル250mg(1錠中)アピラテロン酢酸エステルとして去勢抵抗性前立腺癌:成人には1日1回1000mgをブレドニゾンとの併用において空腹時に経口投与[前立腺癌治療剤(CYP17阻害剤)]		4291
19.60	先①(処)劇	サイトテック錠100	(100μg1錠)	ファイザー(科研製薬)	消化性潰瘍用剤	ミソプロストールとして1回200μgを1日4回(毎食後及び就寝前)経口投与、適宜増減(抗NSAID潰瘍剤)		2329
34.30	先①(処)劇	サイトテック錠200	(200μg1錠)	ファイザー(科研製薬)	消化性潰瘍用剤	ミソプロストールとして1回200μgを1日4回(毎食後及び就寝前)経口投与、適宜増減(抗NSAID潰瘍剤)		2329
84.20	先①(外)	サイプレジン1%点眼液	(1%1mL)	参天製薬	散瞳剤	シクロペンタラート塩酸塩点眼液 1日1回1滴宛点眼、または1滴点眼後5～10分して更に1滴を点眼(屈折能検査点眼剤)		1311
11.80	後(外)	サイベース軟膏0.05%	(0.05%1g)	前田薬品(佐藤製薬)	副腎皮質ホルモン剤	ジフルブレドナート0.5mg(1g中)(油脂性軟膏) 1日1～数回適量を患部に塗布		2646
11.80	後(外)	サイベースローション0.05%	(0.05%1g)	前田薬品(佐藤製薬)	副腎皮質ホルモン剤	ジフルブレドナート[乳剤性ローション剤(ノンアルコールタイプ)] 1日1～数回適量を患部に塗布		2646
11,103.00	先②(処)	ザイボックス錠600mg	(600mg1錠)	ファイザー	合成抗菌剤	リネゾリドとして成人及び12歳以上の小児1日200mgを2回に分けて、1回600mgを12時間毎経口投与、12歳未満小児1日10mg/kgを8時間毎経口投与、1回投与量として600mgを超えない(オキサゾリジノン系合成抗菌剤)[各種感染症・(MRSA)敗血症、深在性皮膚感染症、慢性膿皮症、外傷・熱傷及び手術創等の二次感染、肺炎]		6249

薬価	区分	品名	(規格単位)	メーカー	薬効	用法	用量	分類
105.70	先①劇 処	セレロックス錠200mg	(200mg1錠)	アステラス製薬	解熱鎮痛消炎剤	セレコキシブとして変形性関節症、腰痛症、肩関節周囲炎、頸肩腕症候群、腱・腱鞘炎:1回100mgを1日2回、朝・夕食後に経口投与、手術後、外傷後並びに抜歯後の消炎・鎮痛:成人初回のみ400mg、2回目以降は1回200mgとして1日2回経口投与、投与間隔6時間以上あける、頓用:初回のみ400mg、必要に応じて以降は200mgを6時間以上あけて経口投与、1日2回迄〔非ステロイド性消炎・鎮痛剤(COX-2選択的阻害剤)〕		1149
1,042.30	先②処 局	セレジスト錠5mg	(5mg1錠)	田辺三菱製薬	中枢神経系用剤	タルチレリン水和物として成人には1回5mg、1日2回(朝・夕)食後に経口投与、適宜増減〔脊髄小脳変性症における運動失調の改善〕(経口脊髄小脳変性症治療剤)		1190
1,042.30	先②処 局	セレジストOD錠5mg	(5mg1錠)	田辺三菱製薬	中枢神経系用剤	タルチレリン水和物として成人には1回5mg、1日2回(朝・夕)食後に経口投与、適宜増減〔脊髄小脳変性症における運動失調の改善〕		1190
5.60	後処	セレスターナ配合錠	(1錠)	小林化工(小林化工、ファイザー)	副腎ホルモン剤	ベタメタゾン0.25mg・d-クロルフェニラミンマレイン酸塩2mg(1錠中) 1回1~2錠1日1~4回、適宜増減		2459
9.90	準処	セレスタミン配合錠	(1錠)	高田製薬	副腎ホルモン剤	ベタメタゾン0.25mg・d-クロルフェニラミンマレイン酸塩2mg(1錠中) 1回1~2錠1日1~4回、適宜増減 蕁麻疹(慢性例を除く)、湿疹・皮膚炎群の急性期及び急性増悪期、薬疹、アレルギー性鼻炎		2459
5.20	処	セレスタミン配合シロップ	(1mL)	高田製薬	副腎ホルモン剤	ベタメタゾン0.25mg・d-クロルフェニラミンマレイン酸塩2mg(5mL中) 成人1回5~10mL1日1~4回、小児1回5mL1日1~4回(漫然と使用するべきではない)		2459
40.00	先②向 処	セレナール散10%	(10%1g)	第一三共	催眠鎮静抗不安剤	オキサゾラムとして麻酔前投薬:1~2mg/kgを就寝前又は手術前経口投与、適宜増減		1124
5.60	先②向 処	セレナール錠5	(5mg1錠)	第一三共	催眠鎮静抗不安剤	オキサゾラムとして1回10~20mgを1日3回経口投与(マイナートランキライザー)		1124
5.70	先②向 処	セレナール錠10	(10mg1錠)	第一三共	催眠鎮静抗不安剤	オキサゾラムとして1回10~20mgを1日3回経口投与(マイナートランキライザー)		1124
36.70	先②処	セレニカR顆粒40%	(40%1g)	興和(興和創薬、田辺三菱)	抗てんかん剤	バルプロ酸ナトリウムとして1日量400~1200mgを1日2~3分服、適宜増減(抗てんかん剤、躁病・躁状態治療剤)、片頭痛発作の発症抑制:400~800mgを1日2~3分服、適宜増減、1日量1000mgを超えない		1139
22.10	先②処	セレニカR錠200mg	(200mg1錠)	興和(興和創薬、田辺三菱)	抗てんかん剤	バルプロ酸ナトリウムとして1日量400~1200mgを1日1回経口投与、適宜増減(抗てんかん剤・躁状態治療剤)、片頭痛発作の発症抑制:400~800mgを1日1回経口投与、適宜増減、1日量1000mgを超えない		1139
36.30	先②処	セレニカR錠400mg	(400mg1錠)	興和(興和創薬、田辺三菱)	抗てんかん剤	バルプロ酸ナトリウムとして1日量400~1200mgを1日1回経口投与、適宜増減(抗てんかん剤・躁状態治療剤)、片頭痛発作の発症抑制:400~800mgを1日1回経口投与、適宜増減、1日量1000mgを超えない		1139
45.40	準処 局	セレネース細粒1%	(1%1g)	大日本住友製薬	精神神経用剤	ハロペリドールとして1日0.75~2.25mgから徐々に増量、維持量1日3~6mg、適宜増減(抗精神病剤)		1179
7.80	準処 局	セレネース錠0.75mg	(0.75mg1錠)	大日本住友製薬	精神神経用剤	ハロペリドールとして1日0.75~2.25mgから徐々に増量、維持量1日3~6mg、適宜増減(抗精神病剤)		1179
7.80	準処 局	セレネース錠1mg	(1mg1錠)	大日本住友製薬	精神神経用剤	ハロペリドールとして1日0.75~2.25mgから徐々に増量、維持量1日3~6mg、適宜増減(抗精神病剤)		1179
9.40	準処 局	セレネース錠1.5mg	(1.5mg1錠)	大日本住友製薬	精神神経用剤	ハロペリドールとして1日0.75~2.25mgから徐々に増量、維持量1日3~6mg、適宜増減(抗精神病剤)		1179
9.90	準処 局	セレネース錠3mg	(3mg1錠)	大日本住友製薬	精神神経用剤	ハロペリドールとして1日0.75~2.25mgから徐々に増量、維持量1日3~6mg、適宜増減(抗精神病剤)		1179
20.80	処	セレネース内服液0.2%	(0.2%1mL)	大日本住友製薬	精神神経用剤	ハロペリドールとして1日0.75~2.25mgから徐々に増量、維持量1日3~6mg、適宜増減(抗精神病剤)		1179

## ソニ(内・外・歯)

薬価	区分	品名	(規格単位)	メーカー	薬効	用法	用量	分類
18.10	後(劇)宛	ゾニサミド錠100mg「アメル」	(100mg1錠)	共和薬品	抗てんかん剤	ゾニサミドとして	最初1日100～200mgを1～3回に分服、以後1～2週毎に増量して通常1日量200～400mg迄漸増し、1～3回に分割経口投与、最高1日量は600mg迄(抗てんかん剤)	1139
42,239.60	先(1)宛	ソバルディ錠400mg	(400mg1錠)	ギリアドサイエンシス	抗ウイルス剤	ソホスビルとして	成人には400mgを1日1回12週間間隔パピリンとの併用において経口投与[セログループ2(ジェノタイプ2)のC型慢性肝炎又はC型代償性肝硬変におけるウイルス血症の改善](抗ウイルス剤)	6250
6.10	後(処)統	ゾピクロン7.5mg錠	(7.5mg1錠)	統一名収載品	催眠鎮静抗不安剤	ゾピクロンとして	不眠症:7.5～10mgを就寝前に経口投与、適宜増減、10mgを超えないこと	1129
6.10	後(処)統	ゾピクロン錠7.5mg「アメル」	(7.5mg1錠)	共和薬品	催眠鎮静抗不安剤	ゾピクロンとして	不眠症:7.5～10mgを就寝前に経口投与、適宜増減、10mgを超えないこと	1129
7.90	後(処)	ゾピクロン錠7.5mg「サワイ」	(7.5mg1錠)	沢井製薬	催眠鎮静抗不安剤	ゾピクロンとして	不眠症:7.5～10mgを就寝前に経口投与、適宜増減、10mgを超えないこと	1129
7.90	後(処)	ゾピクロン錠7.5mg「トーワ」	(7.5mg1錠)	東和薬品	催眠鎮静抗不安剤	ゾピクロンとして	不眠症:7.5～10mgを就寝前に経口投与、適宜増減、10mgを超えないこと	1129
7.90	後(処)	ゾピクロン錠7.5mg「TCK」	(7.5mg1錠)	辰巳化学(辰巳、日本ジェネリック)	催眠鎮静抗不安剤	ゾピクロンとして	不眠症:7.5～10mgを就寝前に経口投与、適宜増減、10mgを超えないこと	1129
7.10	後(処)統	ゾピクロン10mg錠	(10mg1錠)	統一名収載品	催眠鎮静抗不安剤	ゾピクロンとして	麻酔前投与:7.5～10mgを就寝前又は手術前に経口投与、10mgを超えない(睡眠障害改善剤)	1129
7.10	後(処)統	ゾピクロン錠10mg「アメル」	(10mg1錠)	共和薬品	催眠鎮静抗不安剤	ゾピクロンとして	麻酔前投与:7.5～10mgを就寝前又は手術前に経口投与、10mgを超えない(睡眠障害改善剤)	1129
9.60	後(処)	ゾピクロン錠10mg「サワイ」	(10mg1錠)	沢井製薬	催眠鎮静抗不安剤	ゾピクロンとして	麻酔前投与:7.5～10mgを就寝前又は手術前に経口投与、10mgを超えない(睡眠障害改善剤)	1129
7.10	後(処)統	ゾピクロン錠10mg「トーワ」	(10mg1錠)	東和薬品	催眠鎮静抗不安剤	ゾピクロンとして	麻酔前投与:7.5～10mgを就寝前又は手術前に経口投与、10mgを超えない(睡眠障害改善剤)	1129
7.10	後(処)統	ゾピクロン錠10mg「TCK」	(10mg1錠)	辰巳化学(辰巳、日本ジェネリック)	催眠鎮静抗不安剤	ゾピクロンとして	麻酔前投与:7.5～10mgを就寝前又は手術前に経口投与、10mgを超えない(睡眠障害改善剤)	1129
341.50	先(2)宛 局	ゾビラックス顆粒40%	(40%1g)	グラクソスミスクライン	抗ウイルス剤	アシクロビル400mg(1g中)アシクロビルとして	1回成人単純疱疹等:200mg、帯状疱疹:800mgを1日5回経口投与、[小児]単純疱疹等:1回20mg/kgを1日4回、1回最高用量は200mg、帯状疱疹等:1回20mg/kgを1日4回、1回最高用量は800mg	6250
541.50	先(2)外 局	ゾビラックス眼軟膏3%	(3%1g)	グラクソスミスクライン(参天製薬、グラクソスミスクライン)	眼科用剤	アシクロビル	単純ヘルペスウイルスに起因する角膜炎:適量を1日5回塗布、適宜回数減じる(ヘルペス性角膜炎化学療法剤)	1319
305.70	先(2)外 局	ゾビラックスクリーム5%	(5%1g)	グラクソスミスクライン	抗ウイルス剤	アシクロビル50mg(1g中)(白色の滑らかなクリーム剤)	単純疱疹:適量を1日数回塗布(抗ヘルペスウイルス外用剤)	6250
221.80	先(2)宛 局	ゾビラックス錠200	(200mg1錠)	グラクソスミスクライン	抗ウイルス剤	アシクロビルとして	単純疱疹:1回成人200mgを1日5回経口投与、造血幹細胞移植における単純ヘルペスウイルス感染症(単純疱疹)の発症抑制:200mgを1日5回造血幹細胞移植施行7日前より施行後35日迄経口投与、適宜増減[小児]通常、1回20mg/kg、1日4回、1回最高用量200mg(帯状疱疹800mg)(抗ウイルス化学療法剤)	6250
352.30	先(2)宛 局	ゾビラックス錠400	(400mg1錠)	グラクソスミスクライン	抗ウイルス剤	アシクロビルとして	帯状疱疹:1回成人800mgを1日5回経口投与、小児:1回20mg/kgを1日4回経口投与、1回最高用量800mg、適宜増減(抗ウイルス化学療法剤)	6250
305.70	先(2)外 局	ゾビラックス軟膏5%	(5%1g)	グラクソスミスクライン	抗ウイルス剤	アシクロビル50mg(1g中)(白色の軟膏剤)	単純疱疹:適量を1日数回塗布(抗ヘルペスウイルス外用剤)	6250
8.40	後	ソファルコン細粒10%「サワイ」	(10%1g)	沢井製薬	消化性潰瘍用剤	ソファルコンとして	1回100mgを1日3回経口投与、適宜増減(粘膜保護・組織修復 胃炎・胃潰瘍治療剤)	2329

薬価	区分	品名	(規格単位)	メーカー	薬効	用法	用量	分類
5.60	後	バファリン配合錠A81	(81mg1錠)	ライオン(エーザイ)	抗血小板剤	アスピリン81mg・ダイアルミネート(ジヒドロキシアルミニウム アミノアセテート11mg及び炭酸マグネシウム22mg)33mg(1錠中) 1日1回1錠経口投与、1回4錠迄増量可、川崎病急性期有熱期間:アスピリンとして1日体重1kgあたり30~50mgを3分割、回復期から慢性期アスピリンとして1日体重1kgあたり3~5mgを1回経口投与(抗血小板剤)(アスピリン・ダイアルミネートをそれぞれ別の層に配合した二層錠・オレンジの淡橙色の素錠)		3399
5.70	準	バファリン配合錠A330	(330mg1錠)	ライオン(エーザイ)	解熱鎮痛消炎剤	アスピリン330mg・ダイアルミネート(ジヒドロキシアルミニウム アミノアセテート50mg及び炭酸マグネシウム100mg)150mg(1錠中) 頭痛・歯痛・月経痛・感冒の解熱:成人1回2錠1日2回、関節リウマチ・リウマチ熱・症候性神経痛:成人1回2~4錠、1日2~3回経口投与(アスピリン、ダイアルミネートをそれぞれ別の層に配合した二層錠)		1143
9.60	局(劇)㉔	ハーフジゴキシンKY錠0.125	(0.125mg1錠)	京都薬品工業(トーアエイヨー、アステラス)	強心剤	ジゴキシンとして維持療法:1日0.25~0.5mgを経口投与(ジギタリス配糖体製剤)[帯黄白色素錠(割線入り)]		2113
54,796.90	先①㉔	ハーボニー配合錠	(1錠)	ギリアドサイエンズ	抗ウイルス剤	レジバスピル90mg・ソホスブビル400mg(1錠中) 成人1日1回1錠を12週間経口投与(だいたい色のひし形のフィルムコーティング錠)[セログループ1(ジェノタイプ1)のC型慢性肝炎又はC型代償性肝硬変におけるウイルス血症の改善][抗ウイルス剤]		6250
53.40	局	ハマボウフウ	(10g)	局方品	生薬	ハマボウフウ		5100
53.40	局	ハマボウフウダイコーM	(10g)	大晃生薬	生薬	ハマボウフウ		5100
53.40	局	ハマボウフウM永大	(10g)	永大薬業	生薬	ハマボウフウ		5100
5.60	後(劇)㉔	パミルコン錠1.25mg	(1.25mg1錠)	大正薬品(テバ製薬、日本化薬)	糖尿病用剤	グリベンクラミドとして1日量1.25mg~2.5mg、適宜増量、維持量決定、1日最高投与量10mg、1回投与:朝食前又は後、2回投与:朝夕それぞれ食前又は後(経口血糖降下剤)		3961
5.60	後(劇)㉔	パミルコン錠2.5mg	(2.5mg1錠)	大正薬品(テバ製薬、日本化薬)	糖尿病用剤	グリベンクラミドとして1日量1.25mg~2.5mg、適宜増量、維持量決定、1日最高投与量10mg、1回投与:朝食前又は後、2回投与:朝夕それぞれ食前又は後(経口血糖降下剤)		3961
13.20	㉔	バムスターS100	(100%10mL)	カイゲンファーマ	バリウム塩製剤	硫酸バリウム X線造影剤 消化管撮影		7212
28.60	㉔	バムスターS200	(200%10mL)	カイゲンファーマ	バリウム塩製剤	硫酸バリウム X線造影剤 消化管撮影		7212
10.00	後(外)	ハーユロン軟膏0.1%	(0.1%1g)	辰巳化学	副腎皮質ホルモン剤	酪酸プロピオン酸ヒドロコルチゾン1mg(1g中)(白色~微黄色・軟膏) 1日1~数回、適量を患部に塗布		2646
29.90	局(劇)	パラアミノサリチル酸カルシウム顆粒	(1g)	局方品	抗結核剤	パラアミノサリチル酸カルシウム水和物として1日10~15gを2~3回に分割経口投与、他の抗結核薬との併用が望ましい		6221
10.50	局(外)	パラオキシ安息香酸エチル	(1g)	局方品	防腐剤	パラオキシ安息香酸エチル		7311
10.50	局(外)	パラオキシ安息香酸エチル	(1g)	司生堂製薬	防腐剤	パラオキシ安息香酸エチル		7311
10.20	局(外)	パラオキシ安息香酸ブチル	(1g)	局方品	防腐剤	パラオキシ安息香酸ブチル		7311
10.20	局(外)	パラオキシ安息香酸ブチル	(1g)	司生堂製薬	防腐剤	パラオキシ安息香酸ブチル		7311
19.70	局(外)	パラオキシ安息香酸プロピル	(1g)	局方品	防腐剤	パラオキシ安息香酸プロピル		7311
19.70	局(外)	パラオキシ安息香酸プロピル	(1g)	司生堂製薬	防腐剤	パラオキシ安息香酸プロピル		7311
1,061.80	先①(劇)㉔	バラクルード錠0.5mg	(0.5mg1錠)	プリストルマイヤーズ	抗ウイルス剤	エンテカビル水和物0.53mg(エンテカビル0.5mg)(1錠中) エンテカビルとして0.5mgを1日1回、空腹時(食後2時間以降かつ次の食事の2時間以上前)に経口投与、ラミブジン不応患者には1mgを1日1回経口投与が推奨、B型肝炎ウイルスの増殖を伴い肝機能の異常が確認されたB型慢性肝疾患におけるB型肝炎ウイルスの増殖抑制(抗ウイルス化学療法剤)		6250
240.60	後(劇)㉔	バラシクロビル顆粒50%「トーフ」	(50%1g)	東和薬品	抗ウイルス剤	バラシクロビル塩酸塩水和物556.21mg(バラシクロビルとして500mg)(1g中) バラシクロビルとして成人1回単純疱疹:500mgを1日2回、帯状疱疹:成人1000mgを1日3回、性器ヘルペスの再発抑制:500mgを1日1回経口投与、水痘:成人1回1000mgを1日3回経口投与、小児1回25mg/kgを1日3回経口投与、1回最高用量は1000mg(抗ウイルス化学療法剤)		6250